

令和8年度 京都府立大学 一般選抜試験（後期日程） 「小論文」（社会科学部）

○出題意図

【一】

課題文は学校組織に対する統制に二元性があることの重要性について述べたものである。問では、筆者の述べている「ルースな統制」と「タイトな統制」を適切に理解した記述がなされているか、その上で、両者の関係について自分の考えを提示し、その根拠について、理論的、説得的に述べられているかを評価した。

評価においては、課題文中に述べられている学校教育の意義や価値を理解した上で、「ルースな統制」と「タイトな統制」の関係についての考えを示しているか、現在の教育に関する社会的課題やこれまでの自分自身の学校経験を社会科学的に分析したうえで、具体的な検討対象を導き出し、説得的に論を展開できているかどうかの2点を中心に評価した。

【二】

都道府県レベルの社会経済状況を示す4つの図表から、2010年代に地方圏において有効求人倍率が増加した要因を推測して論じる問題である。データの正確な読み取りに加えて、現実の社会問題を踏まえてデータ間の関連性を推測することを求めている。主な評価基準は以下の通りである。

- ・データ・定義：図表のデータや概念の定義を正確に議論に反映できているかどうか。
- ・推論の妥当性：提示されたデータに基づいて議論が展開されているかどうか。
- ・論理的一貫性：全体を通じて問いに対する回答を論理的に展開で来ているかどうか。

また、提示されている図表は特定の県のデータであるが、問いでは地方圏全体において有効求人倍率が増加した要因の考察を求めている。個別具体的なデータと特に地方圏で進行してきた問題（少子高齢化、人手不足など）を結び付けて考察することができているかどうか、評価の対象とした。

【三】

問一では、著者が裁判制度を一種の犯罪行為と表現する理由を正確に読み取るとともに、その内容を的確に要約する力を問うた。裁判制度において、真実や行為者の意志を正確に明らかにできないことや、犯罪を処罰する根拠となる道徳や規範は普遍的なものではないこと、それにも関わらず社会秩序維持のためにスケープ・ゴートとして犯人を裁いていることがきちんとまとめられているかを評価した。

問二では、民主主義社会における異質性・多様性の存在意義について、関連情報を適切に示しながら論理的・説得的に記述する力を問うた。論旨に合わせて現代の日本や世界における状況・事例を提示できているか、著者の見解を正しく踏まえているか、論理の筋道が通っていて説得力のある文章で明確・妥当な結論を述べているかを評価した。